

令和2年度第3回庄原市「学びの变革」推進協議会

令和3年2月26日（金） 庄原市ふれあいセンター

「本市児童生徒の『主体的な学び』を促進する教育活動を推進するとともに、学校全体での組織的なカリキュラム・マネジメントの実現に取り組むことにより、児童生徒の資質・能力の向上を図ること」を目的に、研修会を行いました。

【講話】「庄原市一斉学力調査の結果について」

庄原市教育委員会 指導主事 伊澤 知弥



- 庄原市一斉学力調査結果について、全国平均や目標値との比較等の説明を行った。
- ・設問ごとの正答率や解答類型による分析から、令和2年度の取組を振り返り、次年度へ向けて組織的な取組を行う必要がある。
- ・「WEB 評価支援システム」のフォローアップシステムを有効活用する等、正答率 30%未満の児童生徒への取組の充実を図る必要がある。

【講話・協議】「主体的・対話的で深い学びに向けて」

庄原市教育委員会 指導主事 片山 博子

【実践発表】「自分なりの意味や価値をつくりだす小学校高学年図画工作科鑑賞の学習指導の工夫～『対話による鑑賞』の授業モデルの活用を通して～」

庄原市立山内小学校 教諭 森脇 勇太



- 本市における「学びの变革」全県展開に係る取組状況について交流後、「主体的・対話的で深い学び」に向けた取組として、各校における「課題発見・解決学習」の実践状況について協議を行った。

【協議での意見等】

- ◆総合的な学習の時間では、企業の協力を得て、SDGsに関わる活動をしている等、各学校の取組が参考になった。

- 「対話による授業モデル」を活用した図画工作科の鑑賞の授業の実際について、授業動画等を用いた実践発表を行った。
- ・学習の中で、児童に的確な気付きや深い思考を促すためには、ファシリテーターとしての指導者の役割が大切である。



【参加者の感想等】

- ◆鑑賞の時間には児童の作品を用いることが多かった。今回の実践発表のように、絵画を用いて作者の思いや意図に迫るような鑑賞の仕方を知って、大変参考になった。自校でも取り入れたい。
- ◆実践発表が大変参考になった。図画工作科の鑑賞の授業では、対話と教師のファシリテーターとしての役割がとても分かりやすかった。他の授業においても教師がファシリテーターとなることが求められているので是非参考にしたい。

【実践発表・演習】「学力フォローアップ校事業の3年間の取組について」

庄原市立東城小学校 教諭 森崎 美知子
庄原市教育委員会 指導主事 片山 博子



庄原市立東城小学校の実践事例の展示

○庄原市立東城小学校における「学力フォローアップ校事業の3年間の取組」を発表した。

- ・本校事業は、児童の「主体的な学び」を促進し、学力の向上を図るため、小学校低学年段階からのつまずき等を把握し、解消する指導方法等に係る実践的な研究を進め、その成果を検証、普及することを目的としている。
- ・研究授業前の事前研修では、児童の実態をもとに、つまずきの要因を分析し、そのつまずきに対する具体的な手立てを考える。また、事後研修では、つまずきに対する手立てや支援が有効であったか協議を行う。
- ・授業以外の組織的な取組として行った、ランチスタディーや放課後学習が児童のつまずきの解消に有効であった。
- ・県内 20 校のフォローアップ校の実践をまとめたリーフレットが、広島県教育委員のホームページに掲載される。

【参加者の感想等】

- ◆実践を聞く中で、全職員で児童のつまずきの要因を考えることの大切さを知るとともに、自校の取組を振り返る良い機会となった。
- ◆県内の「学力フォローアップ校の取組」をホームページ等を見て、様々な事例を自校の取組に生かしていきたい。

【講話】「今年度のまとめと来年度に向けて」

広島県教育委員会義務教育指導課 指導主事 小池 紘太郎



○広島県教育委員会から、今年度の取組のまとめと来年度の取組に向けての講話があった。

- ・広島県として進める個別最適な学びとは、全ての児童生徒が主体的に学び続けることができていることを目標に、児童生徒一人一人の学習進度や能力、関心等に応じて、多様な学びの選択肢を提供することである。授業の中で児童生徒が自己決定する場面を設定することが大切である。
- ・今年度のカリキュラム・マネジメントの実施状況を振り返り、成果や課題を整理するとともに、来年度に向けて組織的な取組をすることが必要である。

【参加者の感想等】

- ◆来年度は、評価が大きく変わり、全ての教科においてこれまで以上に授業改善をしていかなければならない。その中で、形だけの研究にならないよう、組織的に取組を進め、子供たちの成長につなげていきたい。